

業務部速報



No. 55

発行 21. 9. 29

JR東労組 業務部

幹本申
2号

「新潟新幹線車両センター業務執行体制の見直しについて」
に関する申し入れ団体交渉を行う!

組合の主な主張	会社の主な主張
1.「新潟新幹線車両センター業務執行体制の見直し」により統合するグループに十分な要員を配置し、技術継承と安全レベルの維持・向上と不安なく教育を行える体制を確保すること。	
今施策により、交検本数が減り、自分の時間が増えることで安全レベル向上を図る機会が増えると思った。△12となっても安全・技術レベル向上のため現在の要員を配置すべきだ。	安全・技術レベル向上に向けた要員を確保していく。
施策実施から全社員が様々な業務を担うのでは教育が希薄になる。個々の状況を把握しながら徐々に行うことが重要だ。	10月2日から一気に進めるとは考えていない。交検のない時間を使用して、個々の技術・技能を把握して教育を行う。
2.「検修技術」「交検」「臨修」の各グループを「車両管理」グループに統合した場合においても「交検」から担当し、車両メンテナンスの基礎を身に付け技術レベルを向上したうえで「臨修」「検修技術」を担当すること。	
交検の基礎から学ぶことが大事だと考えるがどうか。	基本的に流れは変わらない。新入社員、交検を経験していない方は交検の車両の基礎を学んで、次の段階になる。
あらゆる分野を極めたい人も、1つの分野を極めたい人もいる。その人のスキルにあった場所もある。そのようなことを踏まえた要員配置が必要である。	個人の把握をしていく。メンテナンスを極める方についても、臨修を行う中で車両の技術レベルの向上ができる。
3.新潟新幹線車両センターの技術継承と安全レベルの維持・向上のため、「車両管理」「輸送管理」とグループを統合した場合に、グループ全体の教育を担当する専任者を配置すること。	
グループを統合するため、将来的に班長の位置付けも変わることが想定される。グループ全体を見る実務者を配置すべきではないか。	専任者を配置する必要性がない。班長を置くことは変わらない。班長が集まって個々を把握し、教育していく。
教育内容は専任者がある程度考えていく必要があるのではないか。	大方針は管理者が決めて、具体的なものはプロジェクトで決める。
現場の中でフロをつくることは変わらない 認識一致!	
4.「新潟新幹線車両センター業務執行体制の見直し」にあたっては、職場の大きな変化点になることから、職場の意見を把握したうえで実施すること。また、実施後における検証を行い必要な議論を行うこと。	
説明会ではどのような変化になるのか実感が無い。実感が無いので、どのような質問をしていいのかわからない。との声がある。新しい体制になるので、今後成果・課題も出てくる。	実施以降も質問があれば管理者に質問していただきたい。
将来的に変わる施策であり検証が重要だ。安全・技術レベル向上とモチベーションが向上しているかの視点で検証を行うべきだ。	レベルアップのための検証を行う必要はある。本人の状況は可能な限り把握していきたい。

安全・技術レベルを向上し、働きがいある職場をつくり出そう!